

図書館を使いこなそう！

—中央図書館の使い方—

3.1 図書館にはどんな場所や設備があるの？

みなさんは、図書館でどんなことができると思いますか？静かに本を読んだり勉強したりする場所、という印象が強いかもしれません。

しかし、それだけではありません！図書館には静かに勉強ができる空間もある一方で、グループで話し合いや発表ができる空間もあります。図書館は、学習スタイルに合わせた多種多様な場所や設備を用意し、みなさんに提供しているのです。ここでは図書館内にどんなスペースがあるかをご紹介します。図書館で何ができるかを理解し、ぜひ自分自身の学習活動に役立てましょう！

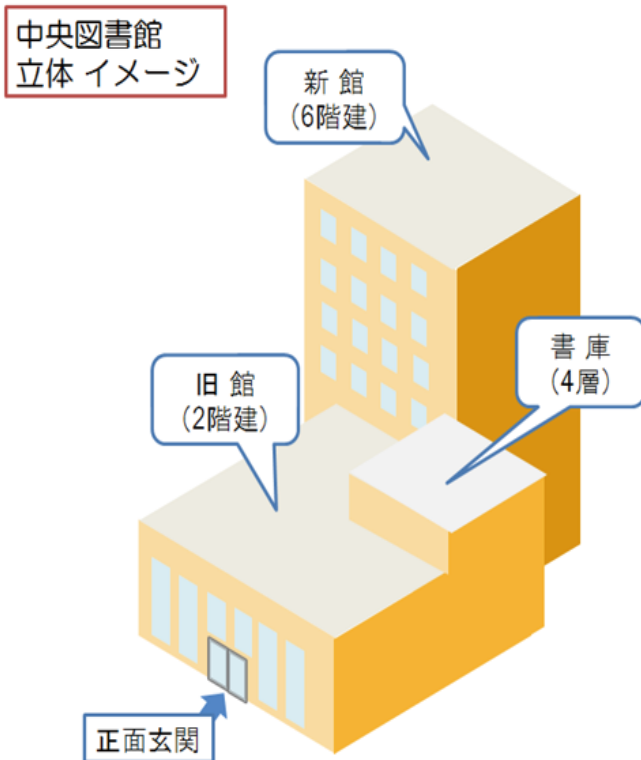


図 3-1 中央図書館立体イメージ

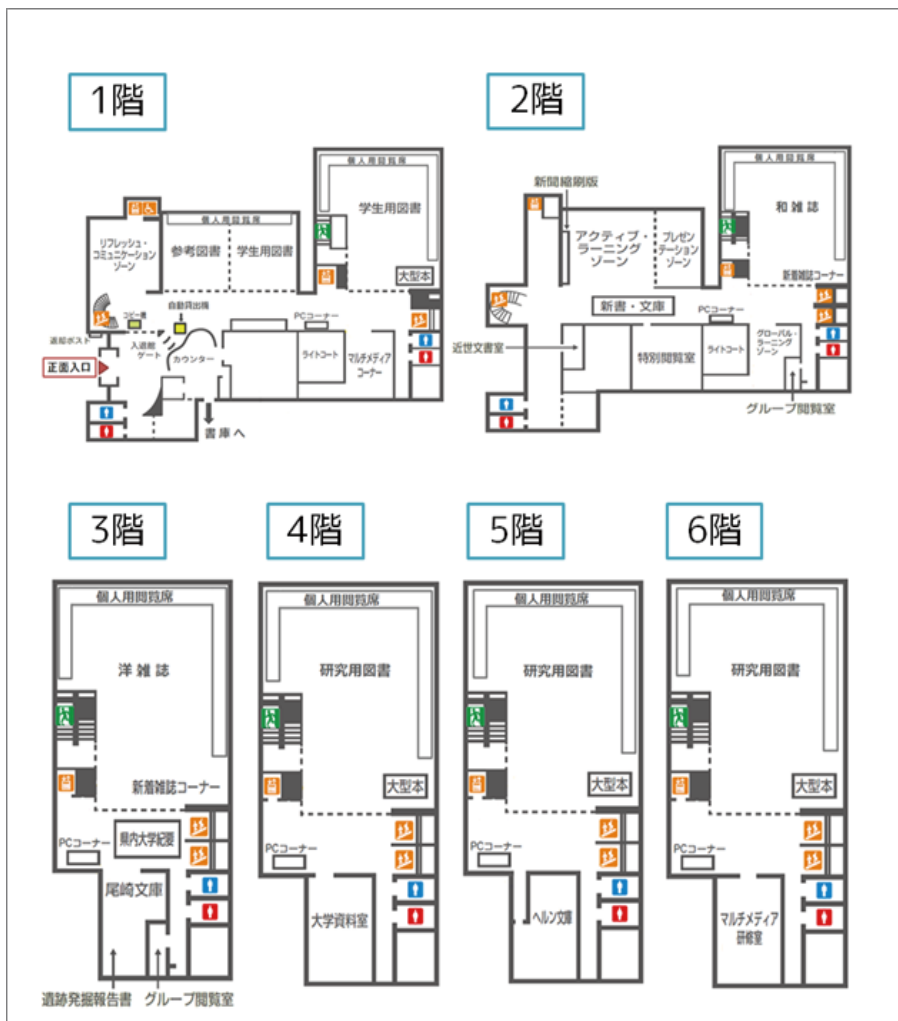


図 3-2 フロアマップ

3.1.1 ラーニング・commons

「ラーニング・commons」とは、学生の学習活動を支援するために整備された空間のことを指します。ここではディスカッションをしたりプレゼンをしたりなど、積極的な学習活動を行うことができます。中央図書館には、「アクティブ・ラーニングゾーン」「プレゼンテーションゾーン」「リフレッシュ・コミュニケーションゾーン」の3カ所が設置されています。

・アクティブ・ラーニングゾーン

中央図書館2階に、グループで学習を行ったり、自分のパソコンを持ち込んで利用したりすることに適した広い空間があります。ここでは、机やいすを自由に動かして組み合わせたり、備え付けのホワイトボードを活用したりして、会話をしながらグループ学習を行うことができます。



図 3-3 アクティブ・ラーニングゾーン



・プレゼンテーションゾーン

アクティブ・ラーニングゾーンの隣に、プロジェクターやスクリーンなどのプレゼン機器を活用した学習や、小規模な集会に利用できる空間があります。アクティブ・ラーニングゾーンと同じく、自由に机やいすを組み合わせることができます。プレゼンの練習やプレゼン機器を使用したグループ学習、小規模な授業や発表会などに活用できます。プレゼン機器を利用したい場合は、カウンターにお申し込みください。



図 3-4 プレゼンテーションゾーン



・リフレッシュ・コミュニケーションゾーン

中央図書館1階の正面入口のすぐ横に、自動販売機や、タウン情報誌やファッション誌などの一般雑誌が設置された、快適にくつろげる空間があります。長時間の学習の合間の休憩や、待ち合わせ、気軽なコミュニケーションなどの場としてご活用ください。



図 3-5 リフレッシュ・コミュニケーションゾーン



3.1.2 個室で話し合いやグループ学習ができる場所

・グループ閲覧室

中央図書館の2階と3階には、グループで利用できる個室があり、テーブルといす8席が備えてあります。利用したい場合はカウンターに申し込みましょう。

平日9:00-21:00の間、最大3時間まで利用できます。



図 3-6 グループ閲覧室



3.1.3 一人で静かに学習できる場所

・個人用閲覧席

個人で静かに学習や読書をしたい時には、図書館の各階の奥に個人用の座席が多く設けられていますので、そちらを自由にご利用ください。



図 3-7 個人用閲覧席



3.1.4 パソコンが利用できる場所

中央図書館内のパソコンは ID とパスワードでログインし、自由に利用することができます。パソコンを使った学習や情報検索、電子ジャーナルや電子ブックの利用などができます。また、パソコンを使った実習形式の授業や発表ができる部屋もあります。

・マルチメディア研修室

中央図書館 6 階にある部屋で、パソコン 30 台のほか、プロジェクターやマイク、プリンタなど、いろいろな機器を設置しています。パソコンを利用する時は、総合情報基盤センターのパソコンと同じ ID/パスワードでログインします。パソコンを使った説明会や発表会、授業など幅広く利用することができます。



図 3-8 マルチメディア研修室



・マルチメディア・コーナー

中央図書館 1 階にある空間で、情報検索用のパソコンや図書館所蔵の DVD・ビデオなどを視聴できる機器を配置しています。パソコンを利用する時は、図書館で発行する ID/パスワードが必要になるので、利用するには図書館カウンターにお尋ねください。主に OPAC やデータベースを使って、情報を検索するための場所です。



図 3-9 マルチメディア・コーナー

3.1.5 語学について学べる場所

・グローバル・ラーニングゾーン

中央図書館 2 階にある空間で、留学生用の図書や日本語教材、英語多読本、語学学習教材、地図があります。



図 3-10 グローバル・ラーニングゾーン

3.2 図書館ではどんな情報が利用できるの？

図書館といえば、「本がたくさんあるところ」と、ほとんどの人がイメージするでしょう。しかし、図書館で持っている情報は、「本」ということばだけでは表現しきれないほど、いろんな種類があります。

図書館で使える情報にはどんな種類があるかを知り、積極的に活用しましょう。

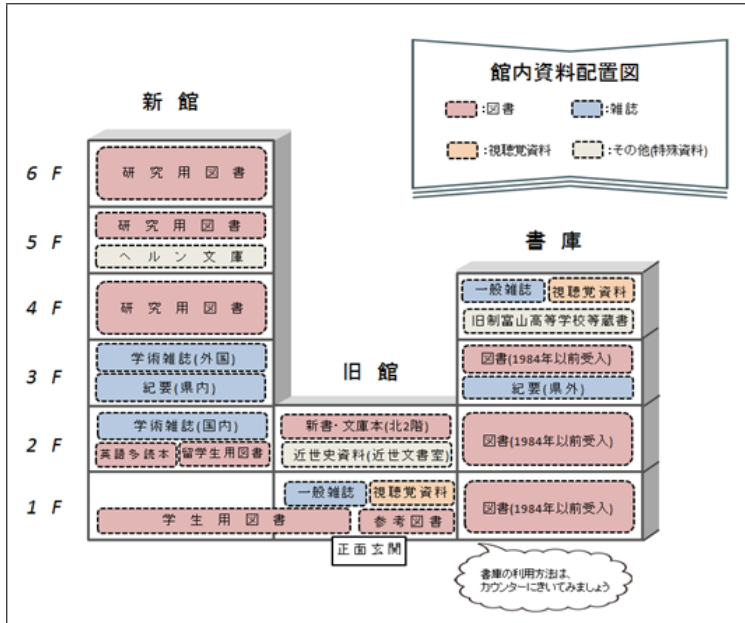


図 3-11 館内資料配置図

3.2.1 図書

図書とは、単発で出版されているものを指します。(図 3-12) 書店で一番よく目にする、いわゆる「本」と呼ばれるものをイメージするとよいでしょう。中央図書館ではさらに以下のように区分して、配架場所を分けています。

1984 年度以前の古い図書については、基本的に書庫に配架されています。

・学生用図書

教員や図書館員が講義に関連して選んだ図書や、学生自身が図書館に置いてほしいと希望した図書です。学生のみなさんの学習やレポート作成に役立つ図書をたくさん揃えています。1 階に配架してあります。

・研究用図書

総合大学として多種多様な研究が行われる中、それぞれの分野の研究活動において利用される、より高度で専門的な内容の図書です。特定の情報を調べたい時に使う参考図書も一部含まれており、貸出ができます。4階から6階に配架してあります。

・参考図書

辞書や百科事典など、ある特定の情報を調べたい時に使う図書です。1階にまとめて配架してあり、貸出できません。

・新書・文庫本

新書・文庫本と呼ばれる小型の図書は、まとめて2階のアクティブ・ラーニングゾーンの前（北2階）に配架してあります。

・英語多読本

英語多読本とは英語学習のための読書教材で、英文で書かれた小説やエッセイの小冊子です。学習者に合わせて、読みやすさがレベル分けされています。2階のグローバル・ラーニングゾーンに配架してあります。

・留学生用図書

留学生向けの図書で、日本語の学習教材や日本文化に関する図書などが置いてあります。2階のグローバル・ラーニングゾーンに配架してあります。



図 3-12 図書

3.2.2 雑誌

雑誌とは「〇月号」「〇月〇号」のように、継続して出版されるものを指します。いつ終わるかは決まっていません。大学の図書館では、学術的な内容を取り扱った「学術雑誌」がその大半を占めています。

・学術雑誌

出版社や学会などから刊行された、学術的な内容の雑誌です。研究者が自身の研究成果をまとめた論文（学術論文）を掲載しています。2階には主に国内刊行雑誌、3階には国外刊行雑誌が配架してあります。雑誌は冊子のほか、数冊まとめて製本されたものがあります。

・紀要

主に大学などの研究機関が刊行しているものを指します。県内の大学などで刊行している紀要は3階に、県外の大学などの紀要は書庫に配架してあります。

・一般雑誌

書店などでよく見かける、気軽に読める内容の雑誌です。新しいものは1階のリフレッシュ・コミュニケーションゾーンに、古いものは書庫に配架してあります。

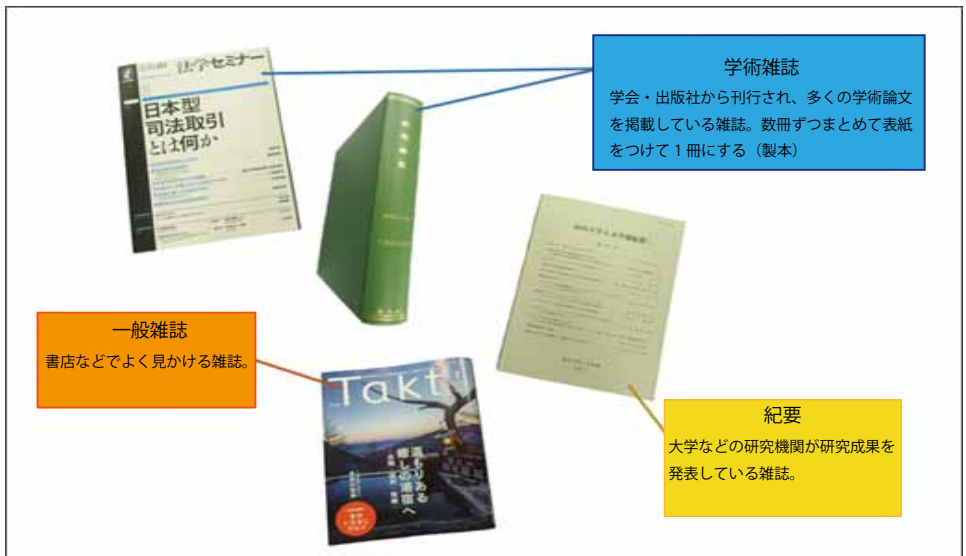


図 3-13 雑誌

3.2.3 視聴覚資料

視聴覚資料とは、音声や映像の資料のことです。主に CD・DVD などのことを指します。1 階と書庫に配架してあります。

3.2.4 その他(特殊資料)

・地方史資料

2 階の近世文書室では、加賀藩砺波地方の農政記録を集めた川合文書及び菊池文書を収納しています。利用は事前に申し込んでください。

・ヘルン文庫

5 階のヘルン文庫には、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)の旧蔵書や伝記、研究書などの関係文献が収蔵されており、全国のハーン研究者に広く公開されています。

これまで紹介した 3.2.1 から 3.2.4 の資料は、いずれも物理的に手に取って利用することができるものです。しかし図書館で提供している資料はそれだけではありません。図書館では、インターネット上で利用することのできる様々な電子的コンテンツも整備して、みなさんに提供しています。ここでは、それらを総称して、電子リソースと呼びます。

3.2.5 電子リソース

・電子ジャーナル

主に出版社や学会が刊行した学術雑誌を電子化してインターネット上で読めるようにしたものです。大学内のパソコンからしか利用できないものと、無料公開されており自宅などからでも利用できるものがあります。



図 3-14 電子ジャーナル

・電子ブック

図書を電子化して、電子ジャーナルと同様、インターネット上で読めるようにしたものです。

・データベース

図書・雑誌や論文、新聞記事の情報など、学術的な各種情報をそれぞれに収集・整理し、検索できるようにしたものです。無料でどこからでも利用できるものと、大学内のパソコンでしか利用できないものがあります。いろいろな種類のデータベースがあるので、特性を理解した上で、目的に応じて使い分ける必要があります。特に、論文を探すための文献データベースがよく使われています。図書館のホームページから、どんなデータベースがあるのか確認することができます。詳しくは第7章にて紹介しています。



図 3-15 データベース一覧(富山大学附属図書館ウェブサイトより)

3.3 図書館では図書館員が待っている！

図書館員は「本の貸出や返却をしたり、並べたりするだけの人」ではありません。みなさんが学習の場面で困った時、それを解決するお手伝いをしてくれる存在なのです。わからないことがあれば、図書館員になんでも質問してみましょう！



図 3-16 図書館カウンター

・ 図書館の基本サービスを使うための質問

多くの新入生にとって、大学図書館はこれまで未知の世界だった場所。足を踏み入れたはいいものの、何をどうしていいかさっぱりわからない、というのは当然のことです。どんな基本的なことでも、恥ずかしがらずにどんどんカウンターに聞いてみてください。図書館員が親切にお答えします。

例えばこんな質問ができます：

- ・ 図書館ってどんな資料があって、どこに置いてあるの？
- ・ 貸出や返却の方法は？
- ・ みんなで話しながら学習できる場所はある？
- ・ コピーしたい時はどうしたらいいの？

など

・ 資料や情報を探すための質問

これから先、みなさんが学習を進めていく中で必ず、図書や雑誌、論文などの情報を探す必要性に迫られることになるでしょう。しかし、ただやみくもに探しても、満足のいく情報を入力することは難しいかもしれません。そんな時はぜひカウンターにお尋ねください。

図書や雑誌の探し方、情報を探すための様々なデータベースの利用方法を、基本から丁

寧にお教えます。富山大学の図書館に欲しい資料がなかった時には、他の大学図書館から取り寄せることもできます。

例えばこんな質問ができます：

- ・○○という本を探しているけど、どうやって探せばいいのかわからない。
 - ・読みたい本がこの図書館になかった！どうしたら読めるの？
 - ・データベースを使って論文を探したいけど、どうやって検索するの？
- など

・調べ物をするための質問や支援

学習を進めていく中で迷ったり、つまずいたりした時も、ぜひカウンターにご相談ください。図書館員がみなさんの調べ物のお手伝いをします。

また、図書館では、大学院生スタッフによる「学修相談デスク」を設けています。学習や調べ物で分からないことがあった時や、学生生活を送る上で困った時など、お気軽にご相談ください。みなさんと同じ学生である先輩方が、親身になって答えてくれます。

例えばこんな質問ができます：

- ・○○について調べたいけど、調べ方がわからない。
 - ・レポート課題を与えられたけど、どうやって書けばいいのだろう？
- など

また、図書館では、「レポートの書き方講習会」や「文献の探し方講習会」など、様々な講習会を開催しています。きっとみなさんの学習に活かされる内容になっていますので、ぜひ参加してみてください。

図書館員が行うサポートについては、第6章にも詳しく紹介されています。

3.4 演習問題

次の文章の_____の部分埋めてみよう。

- ① グループで話し合いながら学習したいときは、2階の_____を利用するとよい。
- ② 大学図書館の雑誌は、学術論文が掲載された_____が大半を占めている。
- ③ 図書・雑誌や論文、新聞記事などの情報を探したいときに使う_____にはさまざまな種類があり、大学内のパソコンでしか使えないものところからでも使えるものがある。
- ④ 困ったときやわからないときは、図書館員のほかにも、大学院生スタッフによる_____に質問することができる。



個人的な話しかできず恐縮ですが、私が大学入学以降どのように図書館を利用したかを少し振り返ってみたいと思います。

私が通っていた大学は当時、教養のキャンパスと専門のキャンパスが分かれていました。私は大学入学後すぐに部活動に入ったのですが、活動拠点が教養のキャンパスだったため、専門科目が主になる2年生後期からその部活動からはフェードアウトしました。部活動に行かなくなり、私は初めて大学の授業期間が案外短いことに気が付きました。

私は実家から離れた大学へ通う下宿生だったため、長期休暇毎に地元へ帰るといっわけにはいきませんでした。かといって、一応進学を見越して部活動を辞めたりしていたので、バイトを増やすのは良心が咎めました。その結果、長期休暇の間は「勉強している感」を何となく満たしてくれ、かつ冷暖房費も節約してくれる図書館へ通うようになりました。ちなみに、学期中で図書館に行くのはレポートのため調べ物の必要に迫られた場合と、友人と試験勉強をする時ぐらいでした。

図書館へ通う大義名分は次学期の予習と進学へ向けた勉強でしたが、ストイックに机に向かい続けるのにはすぐ限界がきて、別の作業をしたり図書館内を散策したりする時間が自然と多くなりました。一方で、元々の目的と全く別の作業をするのも良心が咎めますので、自分が受講予定の科目のシラバスを他学部・他大学のシラバスと比較したり、色々な研究室のホームページを眺めたりしていました。当時はブラウン管のモニターがまだ一般的だったのですが、図書館には液晶モニターのパソコンがあり、動作も軽快だった記憶があります。それに飽きると、自分の所属部局が改組する前の資料を眺めて教員組織の変遷に感嘆したり、書庫をうろろうして分かりもしない学会誌や論文誌のページをめくったりしていました。これらの半ば現実逃避的に過ごした時間の一部は、今でもよく覚えています。その後研究教育の道に進んでから、現実逃避的にしていた作業の多くは必然的に行わなければならないことだと知りました。結局、私自身があの当時図書館で過ごした時間は、自分自身で物事に気長に向き合い、考え続ける訓練をしたようなものでした。そういう賢いな時間の使い方ができたのも、今思うと恵まれたことだったと思います。

話は変わりますが、この文章の原稿は途中から電車移動の間にフリック入力ですべて書いています。恥ずかしながら、メ切に追われてのことです。一昔前ならメ切に間に合わないような状況でも、テクノロジーの進歩に助けられてぎりぎりどうにかなっています。私自身はある側面では退化している気がしますが、かと言って無理に昔のやり方に戻すことはしないでしょう。使いたい時に使い、使いたくない時は使わない。それが許されるのは、とても恵まれたことだと思うからです。学生の皆さんが図書館との関係からそのような恵みを受けてくれると、とても嬉しく思います。